

個別施設計画【横断歩道橋】

番号	施設名	路線名	架設年度	橋長(m)	径間数	幅員(m)	橋種	管理者	点検計画												点検実施 年度 (西暦)	点検結果 健全度 区分
									2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035		
									(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)	(R13)	(R14)	(R15)	(R16)	(R17)		
1	市道長2098号線横断歩道橋	市道長2098号線	1985	15.1	1	2.1	鋼橋	伊豆の国市				○					○				2022	Ⅱ
									修繕計画												対策内容	対策費用
									2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035		(百万円)
									(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)	(R13)	(R14)	(R15)	(R16)	(R17)		

●老朽化対策における基本方針

健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針とともに、予防的な修繕計画等の実施を徹底することにより、修繕・架け替えに係わる事業費の高コスト化を回避し、予算の平準化と維持修繕費の縮減を図ります。
傷んだ横断歩道橋は、健全度結果より管理限界健全度Ⅲ以下について修繕計画をもとに優先して修繕を実施し、橋を長生きさせていきます。

●新技術等の活用方針及びコスト削減の目標値

社会インフラの老朽化対策を効率的に進めていくため、近年、維持管理に係る革新的な技術開発が積極的に行われています。橋梁の維持管理においても、定期点検の効率化や高度化を図る点検支援技術や補修工事の省力化やコスト縮減を図るための補修工法など、新技術・新工法が開発されています。市では持続可能な維持管理を実現するために、定期点検や補修工事の際に新技術等の活用について検討を行い、有効な技術を積極的に取り入れて、効率的・効果的な維持管理ならびにコスト縮減を図ります。

具体的には、本横断歩道橋は「桁下高7.0m以下の橋」であり、長寿命化修繕計画により選定した新技術活用対象からは外れているが、歩道橋の架かる路線（長2098号線）は工場団地へ接続している主要路線であり、交通量が比較的多い道路です。このことから、定期点検時には、安全面及びコスト削減の観点から、従前の高所作業車による近接目視で行う点検に替えて、ドローンを活用した画像計測点検技術による点検を活用することで、安全性を確保できます。

また、補修工事が必要となった場合、腐食対策としての塗替えにおいて、NETISに登録された鋳転換型防食塗料を採用することで、塗膜の寿命が長い従前の塗装仕様に比べ、同等の効果を保ちながら、従前の工法に比べ3,000円/㎡程度のコスト削減が図れることから、積極的に新技術を取り入れていくこととします。

そのため、令和6年度から令和17年度までの12年間で、点検または補修工事において、新技術を活用することで、100,000円程度のコスト削減を目指します。

●集約化・撤去について

市内唯一の横断歩道橋で、国道から中学校に直結していることから、多くの生徒が登下校で利用しています。また、工業団地へ向かう交差点部に位置している重要な横断歩道橋であるため撤去を行うことが困難です。
ただし、架設年が昭和60年と古く架設後40年を超え、老朽化が懸念されていることから、今後、周辺の状況や施設の利用状況を踏まえて、再度撤去に向けた検討を行うこととします。